

# ホーリーバジルエキス

## Holy Basil Extract

ホーリーバジルとは	有効成分	ホーリーバジル についての研究	毒性	バイオアクティブズの ホーリーバジルエキス	製品規格
-----------	------	--------------------	----	--------------------------	------

### ●ホーリーバジル（トゥルシー）とは

ホーリーバジルはヒンディー語でトゥルシーと呼ばれるシソ科の芳香植物で、インド全土に自生している一年生植物です。高さはおよそ30~90cm、紫がかった茎は多数の分岐を持ちます。花は小さく赤紫色で、その種子は赤みがかった黄色です。インドでは2種類の代表的な多型があり、緑色の葉を持つスリトゥルシーと、紫色の葉を持つクリシュナトゥルシーとされ、どちらも同じ薬理作用があるとされています。アーユルヴェーダでは何千年にも渡り、ホーリーバジルの葉をはじめ、根、茎、花、種子など全ての部位を様々な疾患の治療に用いてきました。



### ●有効成分

ホーリーバジルの持つ薬理作用は多岐にわたり、その有効成分量は育った条件、そして収穫や加工工程などによって差が出るとされています。代表的な成分は、葉から単離されるウルソール酸のほか、アピゲニン、ルテオニンなどのフラボノイド、ポリフェノール、アントシアニン、オイゲノールやチモールであり、ホーリーバジルの精油は70%以上のオイゲノールを含有しているとされています。

### ●ホーリーバジルについての研究

【抗酸化】ホーリーバジルの水抽出物を用いたマウス実験では、15日間、40mg/kgのホーリーバジル抽出物を摂取したグループはその後、放射性物質であるヨウ素131を3.7MBq経口投与したことによる脂質過酸化ダメージが、コントロール群と比べて有意に抑制されたことがわかりました<sup>1)</sup>。

【抗脂質異常症】ホーリーバジルの葉から抽出したオイゲノールの投与が、高コレステロール食を与えたラットに与える影響について調べた3週間の試験では、オイゲノール摂取群において、コレステロール値の上昇抑制および抗動脈硬化作用がみられました<sup>2)</sup>。

【抗不安症】ホーリーバジル抽出物が全般性不安障害患者に与える影響について調べた試験では、35名の被験者に対し、一日あたり500mgカプセルを2回摂取させ、試験開始から30日後、60日後それぞれの心理状態を測ったところ、ホーリーバジルの摂取により、不安障害およびそれに関連するストレスや鬱症状が改善されたことがわかりました<sup>3)</sup>。

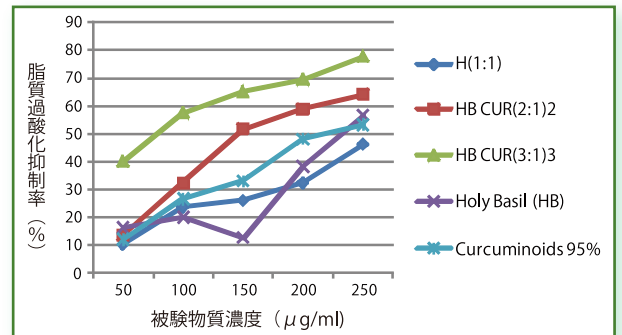
【抗糖尿病】ホーリーバジルの葉が、Ⅱ型糖尿病患者へ与える影響について調べたランダム化プラセボ対照クロスオーバー試験では、ホーリーバジル葉の摂取群において、空腹時および食後の血糖値の上昇抑制がみられました。また、摂取期間中の総コレステロール値にも減少がみられました<sup>4)</sup>。

### ●毒性

急性毒性試験の結果、ホーリーバジルのエタノール抽出物をマウスへ経口投与した際のLD50は4505±80mg/kg、腹腔内投与では3241±71mg/kgでした<sup>5)</sup>。

### ●バイオアクティブズの ホーリーバジルエキス

バイオアクティブズジャパン社では、自社製品ホーリーバジルエキス（ウルソール酸2.5%）の脂質過酸化抑制効果を *in vitro* 試験にて調べました。対象は5つの被験物質で、各々ホーリーバジルエキス単体、クルクミノイド95%単体、ホーリーバジルとクルクミノイドの複合製剤（配合比率は1：1、2：1、3：1）とし、50~250μg/mlの濃度範囲において計測した結果、すべての被験物質において有意な脂質過酸化抑制効果がみられたことがわかりました。そのうち、ホーリーバジルとクルクミノイドを3：1比で混合した製剤においてIC50値が84μg/mlと、最も高い抑制率がみられました。



### 参考文献

- 1) Uma et al. (2006) *Indian J. of Experimental Biology* **44**:647-652
- 2) Thamolwan et al. (2010) *J Clin, Biochem. Nutr.* **46**:52-59
- 3) Bhattacharyya D et al. (2008) *Nepal Medical College Journal.* **10**(3):1/6-9
- 4) Agarwal et al. (1996) *Intr. J. of Clinical Pharmacol.* **34**(9):406-9
- 5) Bhargava KP et al. (1981) *Indian J. Med. Res.* **73**:443-451

### ●製品規格（例：ウルソール酸2.5%）

外観・性状	：粉末、特異的なにおい
色	：薄茶～濃茶色
溶解性	：水に30%以上、アルコールに15%以上可溶
乾燥減量	：6.0%以下
重金属	：20ppm以下
ヒ素	：1.0ppm以下
鉛	：10ppm以下
タップ密度	：0.50~0.75g/ml
ルース密度	：0.15~0.45g/ml
ウルソール酸含量	：2.5%以上（HPLC）
篩別試験	：80メッシュを80%以上通過
微生物試験	：食品衛生法基準に準拠
梱包	：1kgまたは10kg
推奨使用量	：500~1,000mg/日



**BIO ACTIVES JAPAN CORPORATION**  
バイオ アクティブズ ジャパン株式会社

〒170-0005 東京都豊島区南大塚1-60-20-9F

TEL 03-5981-0601 FAX 03-5981-0602

E-mail: info@bioactivesjapan.com <http://www.bioactives.co.jp/>